

## 平成23年度 金沢学院大学公開講座について



金沢学院大学基礎教育機構の公開講座「スポーツおもしろ体験学習」が本学第2体育館で行われ、金沢市内の児童80人がトランポリンの基本的な技を学びました。

参加者は、開脚跳びや腰落ちなど、跳び方の基礎を教わり、バランス感覚を養いました。

このように金沢学院大学では、定期的に一般の方々が参加できる公開講座を無料で開講しております。パソコン講座や歴史・文学講座など様々なジャンルがそろっております。みなさん、ぜひ参加してみてください！

なお、今年度の公開講座一覧を同封しておりますので、ご参照ください。

### 翠会からのお知らせ

翠会では毎年8月に金沢で総会を開いております。是非この機会に、懐かしい皆さんとクラス会を兼ねて集まってみたいかがでしようか？お待ちしております！

日時：平成23年8月7日(日) 14時00分～16時45分

場所：金沢エクセルホテル東急(金沢市香林坊2-1-1 TEL:076-231-2411)

#### 当日の予定

- ◆総会 14:00～15:00 (受付 13:40～)  
場所：金沢エクセルホテル東急 5階 フォレストルーム  
議題 (1) 平成22年度事業報告・会計報告について (2) 平成23年度事業計画(案)・会計予算(案)について (3) 任期満了に伴う役員改選について (4) 奨学金制度について (5) その他
- ◆懇親会 15:15～16:45 (受付 14:45～)  
場所：金沢エクセルホテル東急 5階 ポールルームC

※懇親会のみのご参加も大歓迎です、ふるってご参加ください。

### 編集後記

この度の東日本大震災で被害に遭われた皆様、心を痛めたたくさんの方々には心からお見舞い申し上げます。

皆様、翠会会報～The bloom 2011～は、いかがだったでしょうか？

今号より矢野里枝(第4期卒：文学部)、野中彩(第15期卒：美術文化学部)が新たに会報担当に加わりました。先の震災の影響もあり、従来よりも少ないページ数での発行となりました。

今回の槻木先生の講演(自作のプリントを用いた授業風の講演会でした)を聞いて、懐かしさと同時に新鮮な感動を覚えしました。私たちも、皆様に感動を提供できる会報を作っていきたいと思っておりますのでこれからもよろしくお願い致します。

最後になりましたが、発行するにあたり、たくさんの方々にご協力いただきましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

<募集中>総会などの要望があれば、どしどしお便り下さい。執行部で参考にさせていただきます。

●ご意見、ご感想はこちらまで。 [midori@moon.ucatv.ne.jp](mailto:midori@moon.ucatv.ne.jp)

■発行日 2011年7月 ■発行「翠会」〒920-1392 石川県金沢市末町10  
■編集 矢野里枝(第4期卒：文学部)、池田勇輝(第12期卒：経営情報学部)、野中彩(第15期卒：美術文化学部)、村上丈史(第15期卒：文学部)

# 翠

金沢女子大学  
金沢学院大学同窓会

# 会

[会報誌]

## The Bloom 2011

翠会 会長挨拶

「第1期卒 下置 宏子」

2010年度 総会報告



### 総会に参加して

「第1期卒 橋爪 智恵さん」

「第14期卒 水口 雅志さん」

平成23年度 金沢学院大学公開講座について  
金沢女子大学・金沢学院大学 同窓会翠会 記念講演会

### 「人文学の特徴とその魅力」

講師 槻木 裕氏(金沢学院大学 学長)

編集後記

## 翠会会長あいさつ



翠会会長

第1期卒 下置(旧姓 宇野) 宏子

翠会の会員の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか? 毎回、できるだけ多くの同窓生に参加して欲しい、興味を持って欲しいという思いで活動して参りました。少しずつですが、「行ってみようかな」と、同窓会総会

にお顔を見せてくださる方が増えてきて、とても嬉しく思います。

このたび、3月11日に発生いたしました東日本大震災でお亡くなりになられた方々、被災された方々、また御遺族/御親戚の皆様にご冥福とお見舞いを申し上げます。

日本全体が経済的に落ち込んでしまいがちな今、我々一人

ひとりがこの国難に立ち向かわなければなりません。

今年は同窓会設立20周年の節目にあたる年に、記念総会を盛大に開催しようと、ここ数年経費を抑えて準備を進めて参りました。しかし、このような状況下に盛大に総会を行うよりも、同窓会として違う形の社会貢献があるのではないかと考えました。

東日本大震災の被災者の方々に義援金を送ることや、大学への支援等を提案させていただきました。23年度の総会で皆様のご了承を得られれば、これらの事を20周年の記念事業にしたいと考えております。

会報を受け取った皆さん。是非、20周年のこの機会に総会にお越しください。懐かしの恩師や先輩・後輩に会って、思い出話に花を咲かせてみてはいかがでしょうか?

お待ちしておりますよ。

## 翠会 総会報告

今回の翠会総会は平成22年8月1日(日)におこなわれました。

総会では同窓会の活動報告や会計報告がありました。大学からの要請で、校内にある屋外時計の取替え工事費用の半額にあたる60万円を同窓会費から捻出することが賛成多数で可決されました。

槻木学長の講演会があり、(講演会の内容については後半にまとめてありますのでそちらをご覧ください) その後の懇親会は、自然と槻木先生を囲むようなかたちになり、和やかでアットホームな雰囲気でした。

懇親会に参加される同窓生も始めて参加されたという方も多く、若い方も多くみられてうれしく思いました。懐かしい顔、先生方とも話が弾んでいらっしゃいました。



## 翠会総会に参加して…

Q1 参加は  
何回目でしょうか?

A. 初めです。

Q2 今回参加されることにした、  
きっかけはなんですか?

A. 会報誌に同窓生の顔写真が掲載されていて、懐かしかったこと、都合が良かったからです。

Q3 新しい学長先生の講演会はいかがでしたか?  
また、今回が初めて、もしくは現役時に講義を受けたことがありましたか?

A. 学生に戻った気がしました。(懐かしい…) 槻木学長の講義を受けたことがあります。

Q4 その他、ご意見いただければ  
教えてください。

A. 開催時期を検討してほしいです。(数人の同級生にも聞いたところ同意見がありました)

GW、お盆、春・夏・秋祭り、年末年始…などのイベントがありそうな時期以外がよいと思います。逆に、お盆や、年末年始の帰省時がよい、という方がいらっしゃるかもしれないので、難しいですね…。また懇親会への参加も可能であることを、明記されたほうが、もう少し参加者が増えるのではないのでしょうか。



第1期卒 橋爪 智恵さん

Q1 参加は  
何回目でしょうか?

A. 初めて参加しました。

Q2 今回参加されることにした、  
きっかけはなんですか?

A. 実家に翠会の会報が届いたので一回参加してみようと思いました。

Q3 新しい学長先生の講演会はいかがでしたか?  
また、今回が初めて、もしくは現役時に講義を受けたことがありましたか?

A. 槻木先生の講義は受けたことがなく今回が初めてでした。人文学についての講演でしたが、印象に残ったことがあります。それは、人にはいろいろな考えがあり、「相手がどんなふうに理解しているのか?」を自分自身が理解する、ということです。この人文学の特徴が他の学問とくらべて違う点であり、奥が深いと感じました。

他人がどう思っているのかを考えることで、自分の世界が変わるのではないかと考えさせられました。

良いお話を聴けたので、また機会があれば講演を受けたいと思いました。

Q4 その他、ご意見いただければ  
教えてください。

A. 大学時代の恩師である中西一夫先生に会ってお話できてよかったです。また、参加したくさん思い出話ができればよいなと思いました。



第14期卒 水口 雅志さん

## 金沢女子大学・金沢学院大学 同窓会翠会 記念講演会

# 「人文学の特徴とその魅力」



Profile

金沢学院大学学長

槻木 裕 先生

～経歴～

1949年 石川県生まれ  
1971年 金沢大学法文学部卒業  
1976年 京都大学大学院文学部研究科  
修士課程修了  
1978年 金沢女子短期大学講師  
1991年 金沢女子大学文学部教授  
2007年 金沢学院大学文学部長

主な研究業績

M. ホリス『ゲーム理論の哲学—合理的行為と理性の狡智』  
(全訳、晃洋書房、1998年)  
『現代の無我論—古典仏教と哲学—』(晃洋書房、2003年)  
『文学でたどる浄土真宗のエトス—問いかける仏、問いかける宗教—』  
(探究社、2009年)

2010年4月から金沢学院大学の学長に就任された槻木先生。先生の授業を履修された方も大勢いらっしゃると思います。

「人文学の特徴とその魅力について」と学長になられての所感を今回お話しして下さいました。一部をご紹介します。

### ★はからずも学長になって

寝耳に水という感じで学長の話が降ってまいりました。けれどももう4カ月ほどたち、引き受けた以上は頑張ろうと思っています。同窓生の皆さんにはいろいろな場面で協力を仰ぐ必要が出てくると思いますので、またよろしく願います。

### ★今回の講演「人文学の特徴とその魅力について」

「人文学」とは何かについて、そのとり方に広狭がありますが、ここではちょっと広めにとり、「ヒューマンサイエンス」、即ち「人間が関係する科学」ととって、これに対立するものとして「ナチュラルサイエンス、自然科学」があるという立場でお話をしてみたいと思います。

台風の進路予報が出たとします。すると、例えばそこを進もうとしていた船は進路を変えたり、その場に停泊したりします。しかし、もし台風が人間並みの心があり、「お前がそんなふうに進路を変えるなら、おれだって進路を変えて、お前の船に襲いかかるぞ」と考えたとしたらどうでしょう。現実には台風は自然現象ですから、人間の心を持っているはずもなく、私どもが進路予報に合わせて行動の仕方を変えたとしても、台風がそれに合わせて進路を変えるはずはありません。自然科学は自然物や自然現象の法則的な動き方、運動の仕方を追究しますが、ヒューマンサイエンスには「相手の心」、即ち「相手はどう考えているか」ということが一枚かんできます。自然科学では「相手(複数の場合あり)の心のあり方」を探る必要はないのです。

この立場で考えると、経済学なども人文学の中に入ります。ガソリンが大幅に値上がりしたことがありますが、ガソリンの品質が格段に向上したから値が2倍になったのではない。



講師 槻木 裕氏(金沢学院大学 学長)

日時 2010年8月1日(日)

「先物で買っておけば、後で儲かる」など、多数の投資家の心理が働いて値上がりした。「景気の過熱、冷え込み」という言葉がありますが、「過熱」と言っても、「35度以上の猛暑」というわけではなく、これは明らかに経済関係者の心理の動向を表わす言葉です。ですからどんなに計量化が進んでも、経済学はヒューマンサイエンスであらざるをえない。

「相手の心のありかた」、つまり、「何を考えているか」が一枚かむのが人文学だとすれば、文学や歴史学が人文学だというのは明白でしょう。夏目漱石はどうして登場人物にこのように語らせたり行動させたのか? 明智光秀は何をを考えて信長を討ったのか? もう少し言うと、漱石や光秀は彼らを取り巻く世界を何らかの仕方でも理解・解釈して、それでそのように発言したり行動しようとしたのでしょう。国文学者や歴史学者はそれを理解・解釈しようとしているわけです。いわば「相手の理解・解釈の仕方を理解・解釈しよう」としている。台風や原子の運動の仕方を理解・解釈しようとするのが自然科学ですが、しかし彼らは、台風や原子が周囲の状況をいかに理解しているかなどを考える必要などない。それらは「こころ」を持たない。

すると、人文学の特徴は、対象の動き方を理解しようとする(一重理解の)自然科学とは異なり、「理解の理解」、「解釈の解釈」という二重理解、二重解釈の作業だということになります。それで、「相手の心やその動き方」と言っても、本人以外の誰も推測するしかないものなので(実は本人にもよく分からない心の領域もあります)、それがどうであるかは、かなりの部分が二重解釈者たる私どもの「推測」に任せられます。どのようなものと推測するか、このところが研究する者の「人間理解、社会理解の程度」に委ねられる部分でもあり、その人の独創性が発揮される箇所であって、これがヒューマンサイエンスの魅力なわけです。

### ★金沢学院大学の新しい教育理念「創造」と関連させて

金沢学院大学では新しい教育理念として「創造」を掲げました。いろいろな「創造」があるでしょうが、(二重の)解釈の仕方にその人の独創性が発揮される以上、人文学を勉強する者にも「創造」は当初の印象以上に身近なことです。漱石がなぜ登場人物にかく語らせたのか、とりあえずの解釈ならば、漱石を読み始めたばかりの読者でも意見(ある解釈)を仮説的なものとして述べるができる。駆け出しの自然研究者にも同じことが言えますが、自然科学の場合はもっと客観性が求められる。できるだけ客観的な証拠の積み重ねを要する「仮説の確証の仕方」という面で見れば、人文科学と自然科学との間に本質的な差異があるわけではなく、両者ともにその客観性や包括的説明力をめぐって、オープンな議論・論争にさらされざるを得ないのですが、人文学の場合は、相当な素人であろうとも、それなりにオリジナリティ、独創性を発揮して意見を述べるができるわけです。これが人文学というサイエンスの大きな魅力なのだと思えます。

## 翠会より

当日はプリント持参で熱心な講演をして下さった槻木学長。今後のご活躍と金沢学院大学の発展をお祈り申し上げます。